第1回文京区アカデミー推進協議会分科会（観光分野）
議事要旨

日　時　　平成27年6月10日（水）　18：30～20：30
会　場　　文京シビックセンター5階　区民会議室5A
委　員　　会　長　　野口　洋平　　（杏林大学外国部学部英語学科准教授）
　　委　員　　白井　圭子　　（文京区観光協会　副会長）
　　委　員　　荒木　時雄　　（公益財団法人　東京観光財団　常務理事）
　　委　員　　金輪　精梧　　（文京区町会連合会副会長）
　　委　員　　上田　武司　　（文京区商店街連合会副会長）
　　委　員　　春田　孝二郎　（文京区高齢者クラブ連合会副会長）
　　委　員　　増田　純　　（区民公募委員）
事務局　　矢島　孝幸　（アカデミー推進部観光・国際担当課長）
　　熱田　直道　（アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長）
　　諸　久子（アカデミー推進部アカデミー推進課　観光担当）
　　支援事業者　株式会社創建　氏原・山崎
資　料　　参加者名簿・予定表
　　アカデミー推進計画　観光分野関連資料 No.1～No.60
　　平成27年度アカデミー推進計画進行管理表【観光】
　　平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果

議　事

1．開　会

2．委員等紹介・進行の確認
　委員による自己紹介を行った。

3．議題
（1）アカデミー推進計画の観光分野における平成26年度の進捗状況の評価
　事務局より、「平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果」および「アカデミー推進計画観光関連資料　No.1～No.60」を用いて、平成26年度の事業の進捗状況について説明を行った。

増田委員　　平成26年度取組状況結果で、観光ガイド事業に関して、21人が新たに認定されたとのことだが、14名はこれまでに認定された人数ということか。

事務局　　14名は認定された人数ではなく、平成26年度に観光ガイドとして活動された方の人数である。認定された方はこれよりも多くいらっしゃる。

金輪委員　　観光ガイドツアーについては、鳩山会館や群林堂、できれば地蔵横丁まで出て行っていただき、江戸川公園、芭蕉庵を通って、椿山荘、上に行けば永青文庫や野間記念館、日本女子大もあるので、そのようなコースを考えてほしい。

白井委員　　「（仮称）関口・目白台再発見マップ」は既に取組が進み、ツアーのコースは

決まっているのか。

事務局　学生さんに取組を始めていただいた段階である。

春田委員　文京区高齢者クラブでもシニアプラザ事業で跡見女子学園大学と組み、昨年学生さんが考えたコースを実施したが、あまり年寄り向きではなかった。学生さんの意見だけではなかなかうまくいかないので、今年は企画の段階から私達の意見も入れてもらいたいという話をしている。

事務局　区の観光のガイドコースはどちらかというと、高齢の方を対象にしたものが多く、今回新たに若者の視点によるまちあるきの視点ということで、大学の方にもご協力をいただいている。

白井委員　昔からの地元の人の意見を取り入れると、隠れた観光資源を発掘できるのではないか。

春田委員　跡見女子学園大学の方で、「B-ぐる」をどのように活かすことができるのか考えていると聞いている。

事務局　今年度は、B-ぐる沿線協議会で、大学にもご協力いただくと聞いている。

春田委員　事業に対し、かなりの額の補助金が出るということは赤字になっていると思うので、そこで新路線をつくってほしいとはいえない。

金輪委員　B-ぐる一日券を購入すれば、観光コースを一通り回ることができる。

事務局　今後はB-ぐるを活用したまちあるき等も検討していきたい。

上田委員　まちあるきはテーマ別につくられているのか。

事務局　文京区では現在8コースの観光ガイドコースをつくっている。

野口会長　コースづくりの視点について、そこに住んでいる人とそうでない人では楽しむ視点が違う。外から来た人は滞在時間が圧倒的に短いので、住んでいる人が楽しむようなマニアックな場所に行ってしまうと、消化しきれないところがある。外から来た人が短時間で楽しむという視点を考えると、必ずしも深さだけが魅力ではないのかもしれない。その辺りが難しいところである。
女子大に協力をお願いするのは、他の地域でも行っている。メインはそれでよいと思うが、他の市区町村との差別化という意味では、男子学生等、若い男性の視点をどこかに反映させたほうがよい。

野口会長　観光案内板は地元の人と外から来た人では価値が違うので難しいところである。

野口会長　区内のまつりは近隣と都外から来ている人は割合的にどれくらいなのか。

春田委員　花の五大まつりは早い段階からPRしており、メディアでも取り上げられているので、区内では結構ポピュラーになっていると思う。

金輪委員　特に文京つつじまつりは歴史も長く、来場者も非常に多い。花の五大まつり以外にも各町会で神社があり、氏子もおり、まつりは必ず行う。町会の一番のメインはまつりであり、音羽通りは3年に一度歩行者天国にして、期間中は何かしらイベントを行っている。

事務局　観光という視点で外から人を連れてくるのが花の五大まつりと根津・千駄木下町まつり等だが、もちろん地域の例大祭も重要だと考えており、観光協会では、ホームページにイベントカレンダーを掲載している。各まつりで来場者は増加しているが、文京つつじまつりは谷根千人気もあり、外国人観光

客が非常に増えている。また、文京梅まつりは春節の時期にあたり、中国の方が非常に多い。文京あじさいまつり等は地元の方が多い傾向にある。

野口会長　御神輿に関して担ぎ手不足というところはないのか。

金輪委員　それぞれの地区で会があり、相互に手伝いに行っている。

上田委員　町会青年部で時間に余裕がある人は、名古屋や新潟まで担ぎに行っている。そうすると、向こうからも担ぎに来てくれる。そのような人達がこれからの自治会を担ってくれるとよい。

野口会長　新規事業の「国内外から訪れる観光客へ向けた情報発信」は既存事業のそれと決定的にどこが違うのか。

事務局　観光客が多く訪れる都内の各種施設に、文京区の特設のラックがあるという点ではないか。通常だとこちらからパンフレットを送付し、その取り扱いは相手次第というところがあったかと思うが、今回東京ドームホテルのご厚意により、フロント近くに文京区の観光PR用のラックを置かせていただいている。丸の内の商業施設内の東京シティ・アイは都内の観光情報が集まった施設だが、お客さんが立ち寄りやすいスポットで文京区の情報発信を行っている。花の五大まつりのPRも開催期間中は施設内でご案内しており、ポスター掲示もするため、目にも止まりやすい。また季節により、つつじやあじさいの観光スポットを特集で組んでいただいている。

野口会長　観光客の導線が重要で、文京区に来る前はどこに行っていたのか、区に立ち寄った後にどこへ行くのか、その辺りがまだ掴み切れていない。先日都庁の展望台に行ったが、ますます外国人観光客が増えていた印象である。東京シティ・アイは、都内でも有数の情報交流拠点といえるのではないか。

金輪委員　無料で利用できる点が大きいのではないか。

事務局　文京区シビックセンターの展望ラウンジも無料で利用でき、外国人の口コミサイトで紹介されている。今後は英語のパンフレット等も充実させていきたいと考えている。

白井委員　観光スポットがあってもどのようにして行けばよいか、その説明が意外とどのパンフレットにもない。まちあるきといっても、歩くにはものすごく時間がかかるので、よっぽど時間がないと難しい。「B―ぐる」も20分に1本しかない。

金輪委員　外国人観光客はインターネット等で事前に情報収集し、我々の知らないところをかえって有名にしてくれている。

野口会長　どこからきてどこへ行くのか、本当は文京区内にあるが区内だと認識されていない施設、東京ドームも文京区にあると普段意識することは少ない。観光客は厳密に区境を意識することはなく、どのような組み合わせで周遊しているのか、そうしたことを意識しながらマップづくりや情報発信をする必要がある。全て区内だけを回ってくださいというのは乱暴なのかもしれない。

金輪委員　谷根千はまさにその例だと思う。

野口会長　どこまで区の仕事として取り組むのかは難しいところもあるが、区外から来る人、特に、外国人観光客には行政区分は関係ない。区外在住者や若者など様々な立場の目線がないと情報発信は難しい。文京区は特に資源が豊富であり、区内で完結してしまう気になってしまう。墨田区はかつて浅草寺・

雷門がある台東区の隣の区としてアピールしていたが、最近は台東区があのスカイツリーがある墨田区の隣であると自己紹介するくらい、メインとサブは時として変わる。区境をあまり意識せず、実態的にお客はどのように回っているのかを、特にオリンピック・パラリンピックに向けては意識しないといけない。

白井委員　オリンピックで野球が決定した場合、特に東京ドーム周辺の観光について考えないといけない。

上田委員　これまで数十年、東京ドームの客をどのように文京区内へ誘導するのかが課題であった。ドームには年間約3,500万人が来場するが、そのまま車や地下鉄、JRに乗って帰る。現在も様々な取組を行っている。

金輪委員　観光等で5つに分けているアカデミーの各分野は全て関連している。

春田委員　観光ガイド事業は実際にはどのように運用されているのか。

事務局　文京区観光協会が窓口になっているが、一般の方からの申し込みを受けて、希望のコースを観光ガイドボランティアの方がご案内をする。その他、花の五大まつりの時期に合わせて、まつりの会場で参加者の募集をしたり、区報で月1回程度、文の京ガイドツアーの案内をしている。

春田委員　これはある程度まとまった人数での申し込みが必要なのか。

事務局　最低人数2名以上から申し込みが可能である。参加者はグループの方も個人の方もいる。

上田委員　観光ガイドツアーのテーマは協会のほうでつくるのか、それとも参加者の希望を伝えることができるのか。

事務局　先程お示しした8つのガイドツアーコースは区が決めたものではなく、観光ガイドの方達が自ら作成したものである。ガイドの方は様々な経験や勉強をされる中で、文京区の歴史をどのようにPRしていこうかということで作成している。その他、定番コースにはないが、例えば今年の3月は、「古地図で巡る小石川」と題し、当時の古地図を基にしたコースを歩いた。通常は女性の方の参加が多いが、これに関しては男性の方の参加も見られた。

上田委員　文の京地域文化インタープリターはどのような活動を行っているか。

事務局　企画展等の制作を行っている。昨年度開催した石川啄木歌碑建立の際に企画展における展示内容や制作等は全てインタープリターが行っている。

上田委員　今後はどのように人材を育てていくのか。特に森鴎外記念館は最近入場者数が落ち込んできている。

事務局　石川啄木は来年が生誕130年であり、今後の展開を考えていきたい。
また、森鴎外記念館については、つつじまつりの期間中に、まつりのチラシを持参すると入館料が割引になる取組を実施したところ、入館者数が非常に増えたと聞いている。

野口会長　ゆかりのある文人や著名な方について、専門的に語ることができる人がいるのか、そういった方が継続的に育っているのか、そのような点は気になるところである。全般的に文京区のことを説明できる人も必要だが、特定の観光資源を深く説明できる人がいるのか、またその人材に関する情報を把握できているのか。また、今回、参考資料42「わがまち文京」を用意してもらった

のは、人材育成は大人ばかりではなく、本当は小学校生ぐらいから取り組んだほうがよく、将来的に「観光」という科目ができたらよいと考えているから。ここには、区が区外からどのように評価されているのか、何が魅力なのかといった視点は現時点では入っていないが、小学校、中学校の副読本にもう少し観光目線を取り入れてもよいのではないか。また、人材育成の中で英語教育も必要になってくるはずだが、区としてのそのような人材の情報把握が十分ではない。学校教育で難しければ地域教育で行うことも考えられる。その辺りはなかなか事業化が難しいが、せめて地域で行われていることを情報としてピックアップ、整理するだけでもやっておかないといけない。長い目と、オリンピック・パラリンピックに間に合うかの両方の視点が必要である。観光資源の発掘についても、しっかりと大人がその価値を言わないといけない。また、文京区は古くて価値のあるものが多いので、壊してからでは手遅れになってしまう場合もある。何に価値があるのか、地元の人でも気付かないことがあるので、どのように外の目線を入れていくのか、複数の目線を向けないといけない。

事務局　「わがまち文京」は中学校社会科の副読本として以前からあるものである。オリンピックを踏まえ英語教育や文京区の歴史文化について深く学んでいく必要がある。この2点については、オリンピック決定を受けて教育委員会としても力を入れるとして、平成26年度から取組を始めている。「わがまち文京」は、前回の改定時に比べて文京区の歴史文化について充実した内容となっている。ただ、観光という視点は確かにないかもしれない。英語教育では、中学生の英検3級費用の区負担や、ALT（外国語指導助手）の導入、文林中学校では、今年から英会話のベルリッツを入れて放課後週1回講座を提供している。

野口会長　そのような長い目で人材育成を考えると、必ずしも観光に直接関わっている人のみが、外国人観光客や外から来た人を満足させるわけではない。そこに住んでいる人のホスピタリティ、外から来た人を歓迎する気持ちが重要ではないか。子どもの頃から、そのような自らの区を学ぶ教育に取り組んでいければよい。

事務局　平成26年度の取組状況結果の評価については、いただいた意見を事務局でとりまとめ、会長と共有し、評価の内容については会長に一任いただきたい。

（2）現在の取組等に対する検討（ワークショップ方式）

事務局より配布資料1，2、3、参考資料43を用いて、文京区の観光関連計画等、オリンピック・パラリンピック向けた文京区の取組、東京都長期ビジョンについての説明が行われた。支援事業者より、ワークショップ方式の進め方について説明が行われ、時間の都合上、ワークショップは次回行うこととなった。

野口会長　支援事業者から説明のあった形で進めようと思っていたが、昨年度のことを振り返ることも重要であり、また、いただいた意見は昨年の評価だけではなく、

これからの観光のあり方に関する話も含まれていた。次回はワークショップの形式で進めていきたい。また、もう1点、観光客を呼ぶ、来てもらうばかりではなく、区民が区外へ観光しに行くことも観光施策の1つである。次回議論する中で、是非ご自身の観光体験、他区や国内外の観光地で満足したから文京区でもやるべきだということ、そういった足し算、掛け算の議論をしていきたい。

金輪委員　1つ確認だが、観光の取組はオリンピックのために行うのか。

野口会長　オリンピックはあくまできっかけである。配布資料3の右端に「レガシー」という言葉があるが、これは、オリンピックを開催することによって残る財産や経験、視野等が、私達の生活にどのような遺産として残るのかという視点である。観光分野においても、オリンピックを通じて文京区にとって新たな発見があるはずである。それがまさにレガシーだと思う。

以上